



# ちゅりっぷ通信

笑顔を咲かせよう♪



Vol.2  
2019  
1月号

## 横浜市浦舟ホームを訪ねて

胃ろうだった女性が口から食べられるように

「この施設に入れてよかった」、「あなたに出会えてよかった」とお客様に喜んでもらえるきめ細かなサービスをめざして。

新しい紙面になって2号目の今回は、南区にある横浜市浦舟ホームをおたずねしました。所長の鈴木公子さんにおうかがいしたところ、横浜市浦舟ホームは、横浜市福祉サービス協会が運営する市内3カ所の特別養護老人ホームのひとつで、その中でも、重度の介護認定を受けている人に対応する事業所として運営を行っているとのこと。現在74名の方が入居され、8名の方がショートステイを利用されており、それらの方々の要介護度は平均して4.68という重度の状態です。

医療対応が必要な方、また胃ろうやバルーンカテーテル、痰の吸引などが必要な方を積極的に受け入れており、看護師の配置も多いため、そうした重度の方たちの受け入れが可能になっています。

その中で、どのような運営を心がけておられるのかを聞いたところ、「決して希望して入居される方が多いわけではない状況のなかで、それでもこの浦舟ホームに入ってよかったと心から思ってもらえるようにすること」と即答されました。家族や住み慣れた地域から離れてしまったと悲観的に受け止める方や、もう帰りたいと嘆く方に対して、心を込めて接し、あなたたちはこんなふうにしてくれるのね、



心に寄り添う、きめ細かなサービスをめざす鈴木所長

とか、住んでみるとまんざらじゃないわね。」と書いてただけるようになるのがわたしたちの仕事です。「心を閉ざしていた方が、ある日「口」ツツと笑顔になられたりする」と、本当にうれしくなります」と鈴木所長。

## 「かながわ高齢者福祉研究大会」でも研究や取り組みを発表し、優秀賞を受賞。

その鈴木所長は介護の現場で30年近くキャリアを持つベテランです。現在は所長として、職員がいかに働きやすい環境を作るかということにも積極的に取り組まれているそうです。ケアに対して前向きに取り組む姿勢は、お客様や同僚から信頼を得ることができ職員自身の自信になり、それを記録として残すことは振り返りにもなります。「かながわ高齢者福祉研究大会」への参加はそうした取り組みの一つであるといえます。

この大会は、県内の特別養護老人ホームなどの職員が日々の実践や研究などの、高齢者福祉の最前線を社会に発信するもので、平成30年7月の大会では、浦舟ホームからこの部門で優秀賞を受賞したそうです。



「最期まで口から食べる喜び」というテーマで優秀賞を受賞した有馬さん

そのうちのひとつ、研究発表の部門で「最期まで口から食べる喜び」というテーマで優秀賞を受賞した管理栄養士の有馬美代さん(旧姓高岡)にもお話を聞きました。これは、認知症の症状もあり、それまで胃ろうを受けていた女性入居者に対して、口から食べる機能を回復させるという取り組みで、有馬さんとしても管理栄養士として初めての試みだったそうです。最初、胃ろうで食べられなかったはずの人が、初めてひとくち食べることができたとき、おいしさと涙を流して喜ばれ「わたし自身ほんとうに感動しました」という有馬さん。こうした積極的な取り組みのきっかけは、仕事が終わった後、職員たちが自発的に月一度参加している勉強会で得た知識だったといえます。これは鶴見大学歯学部で高齢者歯科を教える管武雄氏が開いているもので、浦舟ホームの有馬さんや介護リーダー・生活相談員たちが勉強のために参加しているのだそうです。

## 「意思を伝えるのがむずかしい人の、気持ちをくみ取ることができるようになりたい」。

もつひとつ、介護技術発表の部門で優秀賞になったのが伊東輝彦さん、山田大貴さん、飯野沙加奈さんの職員チーム。70代でパーキンソン病を患う女性に対して、「口から食べられるようになりたい」と、きめ細かいケアを展開した事例を発表したそうです。

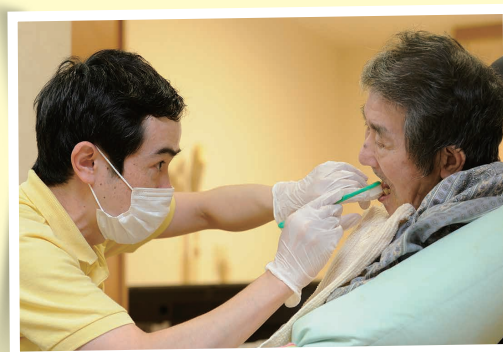
きっかけは、1日24時間の生活の流れの中で多職種が協働し個別ケアを実践することで、お客様が目指す生活の姿に近づけることを目的とした「浦舟ホーム包括的ケア委員会指針」だそうです。その取り組みの

一つが、今回の受賞につながりました。もともと「口腔ケア」や「リハビリ」など分かれていた委員会を、それだと人を症状だけで見ることになり、全人格的なケアにつながりにくいということから、包括的ケア委員会に改めたそうですが、そうした前向きな改革も功を奏したのかもしれない。

伊東さんは半年間の実務者研修を受けて、初めて浦舟ホームに配属されたそうですが、やはり現場の難しさや大変さを感じる毎日だそうです。しかし、そのなかでも、お客様の要望に気づくことができるようになることを日々心がけているといいます。それというのも、「自分の意思をちゃんと伝えることが困難な方が多いので、そのぶん、自分たちが気持ちをくみ取るようになってあげなくては」という思いがあるからだそうです。

## 「安全というあたりまえを大事にするのが、質の高い仕事につながる」。

同僚の山田さんも介護職員初任者研修を受けて浦舟ホームに配属されました。介護の経験はなかったものの、周囲からは向いていると言われたことが介護職を目指したきっかけだそうです。同僚によれば、「落ち着いているし、誰に対しても平等で、持っている雰囲気



スポンジブラシを使っていないに口腔ケアする伊東さん

も柔らかい」というのが山田評。今回の受賞について聞くと、「この大会に向けて勉強している自分を、2年前の自分が見たらびっくりすると思います。信じられないほど成長したと、自分でも驚くほどです」。

毎日の仕事で心がけていることは、「危なくない

ようにする」といふことだといいます。「あたりまえのようですが、お客様も自分も安全ということが基本ですし、常に最善の介助の方法を考えるようにしています」といいます。それは、高い意欲を持っていたのに腰を痛めて仕事を辞めざるを得なかった同僚を見ているからで、自分の安全にもお客様の安全にも常に細心の注意を払っていきたいし、それが質の高い仕事にもつながっていくと思えますとのこと。

取材当日は、一度立つと、退所する時間まで座ることもできないほどの忙しさ。しかし、所長をはじめ職員が「丸ごと運営する浦舟ホームからは、サービスの質へのこだわりと意気込みが伝わってくるようでした。

**横浜市浦舟ホーム**は特別養護老人ホームと短期入所生活介護のふたつのサービスを行っています。

市営地下鉄阪東橋駅より徒歩5分、京急黄金町駅より徒歩10分。お気軽にお問い合わせください。

所在地：横浜市南区浦舟町3-146

☎045-1264-1150



浦舟ホームのアイドル、コーギー犬のコタロウ



介護技術発表の部門で優秀賞を受賞した伊東、飯野、山田さんのチーム

## ここが地元の 穴場 スポット

## 横浜橋商店街

粋な下町の活気を感じながら、雨に濡れず  
買い物から食事、散策まで楽しめます。



横浜を代表する商店街といえ  
ば、やはりこの横浜橋商店街。南北  
350メートルほどの商店街には  
130以上ものお店がたちなら  
び、わたしたちの生活に欠かせな  
い食料品店から衣料品店などが  
びっしりと軒をならべています。

お蕎麦屋さんから、喫茶店、美容  
室、整骨院、花屋、化粧品店と、あつ  
たらいいなと思うお店が全部そ  
ろっているうえに、アーケードにな  
っていますから、お天気に関係な  
く、いつでも買い物を楽しむことが  
でき、さらに時間帯によっては、車  
椅子などでもゆっくり散歩ができ  
たりします。お年寄りにはまさに  
ぴったりな買い物ゾーンといえる  
でしょう。

楽しい抽選会があったり、縁日  
が出たりと、いつ行ってもわくわく  
することうけあいです。横浜橋商  
店街のこうしたサービス精神は、  
先年亡くなりましたが、長くこの

商店街の名誉理事を務められた  
桂歌丸師匠のお人柄もあつたのか  
もしれません。

いっぽう、横浜橋商店街に道路  
をはさんで隣接している三吉橋商  
店街は、日本一小さいといわれてい  
る、わずか30メートルほどの通り。  
けれども昭和のよさが感じられる  
お店がびっしりとたつ立派な商店  
街です。しかも戦前から続く大衆  
演劇のメッカ、三吉演芸場もすぐ  
近くにあつて、演目によっては昔な  
がらに「おひねり」が飛び活気を呈  
しています。

横浜橋商店街から三吉橋商店街  
まで、ゆっくり歩いても20分くらい  
でしょうか。あちこちのお店をのぞ  
きながら、食べ歩きなどをするのも  
楽しいものです。まだ行ったこと  
ないという方、今度のお休みに、買  
い物がてらお出かけしてみてください  
いかがでしょうか。



大通り公園にある「歌丸桜」。  
もちろん桂歌丸師匠にちなんで植えられました。



屋下がりの横浜橋商店街。  
この時間帯なら車椅子でもゆっくり楽しめます。



横浜橋商店街の入口。  
立派なアーケードで雨でも濡れる心配がありません。

## NHKでも話題のポスター、当協会職員が制作に参加！



藤棚地域ケアプラザのゆるキャラ「フジダーニャ」と一緒に

いま、障がいのある子どもたちへの理解を啓発する一枚のポスターが評判になっています。「わかりやすい」「やさしい気持ちになれる」といった声もSNSで数多く発信され、NHKでも2度にわたって紹介されました。実は、このポスター制作にかかわったのが横浜市福祉サービス協会の藤棚地域ケアプラザで生活相談員として働く江崎明子<sup>えさきあきこ</sup>さんなのです。

江崎さんは平成29年4月から3年間港南区役所に出向していました。そのときに、有志らが作るうとしてアイデア段階で止まっていた啓発企画に出会い、それにイラストや言葉を書き加えるなどして、ポスターとして仕上げました。

「福祉の専門家のためでなく、一般の人に見て欲しいポスターなので、障がいのある子どもたちの行動を専門用語ではない言葉で説明したかった」と江崎さん。その思いが、わかりやすく、そうだったのかと気づきのある啓発ポスターになりました。

いまでは横浜市だけでなく、九州や北陸など、

全国の自治体からも引きあいがきて、各地で掲出され話題になっています。

現在は横浜市福祉サービス協会にもどり、藤棚地域ケアプラザで活躍されている江崎さんですが、じつは若くして知人もいない横浜で結婚・出産。一人で赤ちゃんを育てる不安で、心細い毎日を過ごしていたとき、様子を気にかけて見に来てくれた民生委員の人に、精神的にもずいぶん助けられたのだとか。その経験が、同じ思いをしているお母さんたちの力になりたいたと、地域ケアプラザの赤ちゃん学級に通うことにつながり、さらに、いまの生活相談員にもつながっているそうです。ご自身の経験に裏付けられた江崎さんのやさしい気持ち、今回評判となったポスターにもよくあらわれているようです。ちなみに江崎さんの赤ちゃんはいまでは24歳の青年に育ち、難関の社会福祉士の国家試験を親子で受験、無事に合格し、お母さんと同じ福祉の道に進まれているそうです。

わかりやすいと評判のポスター

**あたたかく見守ってください**  
障がいからくる様々な行動があります。

**ひよんひよんくるくる**  
想像を膨らんだり想像や不安を解消するために、何度も同じ動作を繰り返すことがあります。

**うろうろ**  
気持ちが落ち着かない時、歩き回って平静を保とうとすることがあります。何もしていないで待つことが苦手な人もいます。

**ぶつぶつ**  
強い服を脱いだり騒音や不快な音に敏感なため、作業を繰り返して思い浮かべて気持ちの整理をしていることもあります。

**大きな声**  
聴覚の過敏さから目を細んだり、自分の声で落ち着くこととして大きな声を出すことがあります。先の視通しが見えづ不安になっている場合もあります。

**いつもの場所**  
特定の場所にこだわる場合があります。いつもの場所だと安心できます。

**集める・結ぶ・繋ぎ合わせる**  
コレクションのようにものを集めることにこだわる人もいます。ランダムデザインが豊富で紙質も様々なため魅力的です。

制作 港南区自立支援協議会  
港南区役所 高齢・障害支援課 (事務局) 港南区基幹相談支援センター  
TEL.045-847-8459 FAX.045-845-9809  
TEL.045-370-7502 FAX.045-370-7503

### 介護者のための相談電話

#### 介護に疲れたとき…**ほっとライン**

介護に疲れて行き詰まったり、不安になったりしたとき、ひとりで悩まないで、ほっとひと息ついてみませんか？

☎045-227-1718

#### 「お客様相談室」をご利用ください

「お客様相談室」では、事業やサービスについてのご意見やご要望をお受けしています。まずはお気軽にお電話ください。

☎0120-701-782 FAX 045-227-1721

※受け付けは年末年始および祝日を除く月曜～金曜の8:45～12:00 / 13:00～17:15まで。ご相談の秘密は厳守いたします。

#### 協会の理念

- お客様の満足
- 人を大切に共に育ちあう企業風土
- 公正で透明感のある企業倫理

#### 社会福祉法人 横浜市福祉サービス協会

〒220-0021 横浜市西区桜木町6丁目31番地 6階

☎045-227-1700 FAX 045-227-1701

ホームページ <http://www.hama-wel.or.jp/>



古紙パルプ配合率80%再生紙を使用